

令和2年度第4回横浜市子ども・子育て会議 青少年部会 会議録

開催形態	書面開催（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）
日時	審議期間 令和2年10月6日（火）から10月13日（火）まで
出席者	津富宏部会長、萩原建次郎副部会長、飯塚昇委員、井原綾子委員、岩本真実委員、 江渕武雄委員、大野功委員、勝俊一委員、熊部良子委員、小市聡委員、中村美安子委員、 林田育美委員
議題	<議事> 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

<議事>

横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

<意見等>（委員名簿順に掲載）

（熊部委員）

点検評価について、事業の経年変化だけでなく、社会情勢の変化や他の地方公共団体と比較した傾向などの視点も、より深められるとよいのではないかと感じた。

（津富部会長）

有効性については、事業者・利用者の主観評価のみになっているため、何らかの客観的な指標も加えた方がよいのではないかと。

（中村委員）

点検・評価案（資料4）の中に、新型コロナウイルス感染症による影響についての記載は一部にあるが、全体を通してそれほど大きい影響は読み取れない。R1年度は2～3月の年度末のことであり影響は限定的であったということではよろしいか。

（事務局）

感染対策のため、2月下旬頃から施設を閉鎖したり、事業を中止したことにより、影響はあったが、そのために、各事業の進捗状況の評価が例年より低くなったとまでは言えず、影響は限定的であったと言える。

（萩原委員）

困難な若者への支援は結果が出にくく、根気強い支援が必要になる。その意味で、進捗状況などに付くマイナス評価が現場のスタッフのモチベーションをそぐことのないように工夫する必要があるように思う。

（林田委員）

・点検・評価案（資料4）の「元年度の取組」について、実際に取り組んでいる者の意見だけでなく、もう少し客観的な意見を反映させる必要があるのではないかと。毎年「D」評価が続く理由を、主観的な視点だけで測るべきではないように思う。

・新型コロナウイルスの状況下においては、事業推進に向けて、これまでとは異なる視点も必要になると思う。

・今後は、どの分野においても連携体制強化がより重要になるのではないかと考える。

(梁田委員)

様々な施設、相談機関があるが、その効果を数値に表すことは難しいと思う。必ず数値に現われない効果があると思うので、今後も推進して行ってほしい。

以上

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 委員名簿 資料2 第4期第4回子ども・子育て会議青少年部会の開催内容及び方法について 資料3 令和元年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について 資料4 令和元年度 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価案 資料4－別紙1 子ども・子育て支援事業計画 基本施策②・④ 資料4－別紙2 子ども・子育て支援事業計画 各年度実績 資料4－別紙3 D 評価の理由及び今後の対応について 参考 横浜市が取り組む青少年施策
特記事項	なし